

## 第10回群馬小児がん研究会抄録

日 時：平成17年3月4日(金)  
会 場：前橋商工会議所会館 Rose  
当番幹事：難波 貞夫(総合太田病院小児外科)

〔特別講演〕 座長 難波 貞夫(総合太田病院小児外科)

### 「病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプを創る」

横山 清七 先生(前東海大学小児外科教授)

(病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプ  
(そらぶちキッズキャンプ)を創る会会長)

#### 〔一般演題〕

座長 石橋 清子(群馬県立小児医療センター外科病棟)

#### 1. 学童期にある子どもの看護を考える

～子どもの権利を視点として～

柴田夕貴子, 石橋 清子, 中村 孝子

(群馬県立小児医療センター 第二病棟)

入院生活を送っている学童期の子どもは、様々な制限がある中で、子どもにとって最善の生活を送っていくことが困難となっている状況がある。日本看護協会では小児看護領域でとくに留意すべき子どもの権利と必要な看護行為について、学童期にある子どもは、病状に応じた学習の機会が準備され活用されなければならないと述べている。病気の子どものために最善の利益を支える看護とは、子どもと共に考え、病気をもつ子どもが自分らしく生活を送れるように支援し保障することである。病室での学習発表を機会として、入院生活に積極的な姿勢をみせた事例を経験し、学童期にある子どもに対する看護について、子どもの権利に視点を当て検討したので報告する。

#### 2. 小児造血幹細胞移植におけるクリニカルパスの導入

長塩 恭子, 中里 江利, 今井 裕子

田村 一志, 鈴木 道子, 金沢 崇

栗原 一子

(群馬大・医・附属病院 北3階病棟)

当科では2002年に新病棟移転に伴って高度無菌管理

室が設立され、小児の移植のみならず、成人の移植患者の受け入れもあり、入室患者数も増加している。病棟新設後、造血幹細胞移植治療においては、無菌室の簡易化を積極的に進め、業務の効率化・コスト削減を行ってきた。

しかし、看護スタッフの入れ替わりも激しく、スタッフが正確に手順を把握し、円滑に看護を実施することへ懸念があり、患者家族からも、看護師によって手順が異なるなどの声もきかれた。

そこで、より確実に、より効率的に手順やスケジュールを把握し、担当するスタッフ間で処置やケアにずれがない、つまり安全や質に差がない医療を提供するためにパスを作成、導入することにした。今回は、小児骨髄移植を受ける学童を対象に、無菌室入室から退室までのパスを作成した。

パスの内容としては、感染管理に関する処置やケアをできるだけ詳細に挙げ、確実に実施できるようチェック方式とした。また、化学療法の副作用やGVHDの症状は、CTCによる共通毒性基準により客観的な観察ができ、早期に症状対応できるようにした。

今後は、パス使用症例を重ね、バリエーション評価をしながら、修正していきたい。